平成２９年１１月定例会会議録

（平成２９年１１月１５日）

八代市教育委員会

八代市教育委員会１１月定例会会議録

【開 催 日】　平成２９年１１月１５日（水）

【場　　所】　八代市千丁支所２階　庁議室

【出 席 者】　北　岡　　博　教育長
冨　田　壽　人　教育委員
小　嶋　ひろみ　教育委員
松　永　松　喜　教育委員
水　田　千　春　教育委員

【出席職員】　釜　　道　治　教育部長
桑　田　謙　治　教育部次長
中　　勇　二　教育部政策調整審議員
宮　田　　径　教育部理事兼教育政策課長
渡　邉　裕　一　教育部首席審議員兼学校教育課長
塩　塚　将　朗　教育部教育施設課副主幹兼設備係長
廣　兼　和　久　生涯学習課長
髙　嶋　宏　幸　教育サポートセンター所長
福　原　　透　博物館未来の森ミュージアム副館長

【事 務 局】　岩　崎　伸　一　教育政策課課長補佐兼教育政策係長
西　村　妙　子　教育政策課主任

【審議事項】　＜報告案件＞
①報告第１７号　平成２８年度決算審査における質疑・要望等の概要について
＜協議案件＞
①協議第５号　第２期八代市教育振興基本計画（素案）について
②協議第６号　学校評議員制度及び熊本版コミュニティ・スクール（ＣＳ）、次期学習指導要領の全面実施を見据えた授業時数の確保について
③協議第７号　八代市総合教育会議に係る「今後の主要課題」について

１.開会　（午前９時５５分　開会）

北岡教育長　〈教育長職務代理者の指名〉
委員２人の退任及び就任に伴い地方教育行政の組織及び運

営に関する法律第１３条第２項の規定による教育長職務代理者に冨田委員を指名

２．教育長報告　　前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

北岡教育長　　１０月３１日　校長期首面談、図書贈呈式
１１月１日　教育委員辞令交付式、学校訪問Ｃ（松高小）、退任教育委員慰労会
１１月２日　八代市学校給食研究協議大会
１１月３日　さかもと国際児童画展オープニングセレモニー
１１月５日　みなと八代フェスティバル、茶道同好会合同茶会
１１月６日　校長園長会議
１１月７日　教育委員会連絡会議、八代北部中学校音楽会
１１月８日　八代北部小学校音楽会
１１月９日　学校訪問Ｃ（東陽中）
１１月１０日　園訪問Ｃ（植柳幼稚園）
１１月１１日　教頭会との意見交換会
１１月１２日　熊本県公立高等学校城南地区ＰＴＡ指導者研究大会、ちびっこ妙見祭
１１月１３日　市政連絡調整会議、教育長会議
１１月１４日　叙勲伝達

３．議題

〈報告第１７号　平成２８年度決算審査における質疑・要望等の概要について〉

桑田教育部次長　　文教福祉委員会において、平成２８年度予算教育費に係る決算審査委員会が開催された。今年度から決算審査特別委員会による審査から文教福祉委員会による審査へと変更になり、今後は、予算決算の連動した審査がなされるものと期待されている。

教育費について総括的な事項を資料により説明

支出済額について、対前年度比で減額になっている主な理由は、２７年度に終了した学校校舎等の耐震改修事業費１，２２０，０００千円と２８年度から本格的に工事に取り組んだ体育館及び武道場の非構造部材耐震化事業改修事業費３３６，０００千円との差額である。

執行率は９４．８％で、不用額が生じた主な原因は、予算の効率的、経済的な執行や経費の節約によるもの、予算作成後の予見しがたい事情の変更等によるもの、予算上の見積や想定が実情とあっていなかったものである。主な不用額は、学校体育

館等非構造部材耐震改修工事設計見直し、入札による減、熊本地震による災害復旧経費の減、学校で利用する光熱水費、上下水道使用料の減

５人の委員からの質問等のうち主なものについて報告

・パソコン教育推進事業　整備状況について国の目標、八代市の現状、国の支援についての質問に対し、3.6 人に 1 台の国の目標に達していないが段階的にデスクトップ型からタブレット併用型に切り替えている。また。整備に補助はなく、普通交付税が措置されていると回答した。

・不登校児童生徒の適応指導事業　くま川教室の利用者数、指導内容、本市の不登校児童生徒数、老朽化している施設の建替えについての質問に対し、正式な利用者は、14 人で、体験利用者を含めると 20 名を超える利用者が通所しており、8 人の指導者が学習指導等を行っている。また、不登校児童生徒数は、28 年度 127 人である。施設については、建替え又は代替施設を検討していると回答した。

・語学指導外国青年招致事業　ＡＬＴの人選方法、財源、活動内容、ＡＬＴの人数は十分かどうかについての質問に対し、国のＪＥＴプログラムで採用されたＡＬＴが派遣されており、財源は国の普通交付税が措置されている。週当たり 35 時間勤務、1 人当たり 4～6 校を担当。大規模校や来年度から英語の授業数が増える小学校では不足するためＡＬＴ、英語支援員の予算確保が課題であると回答する。

そのほか、各委員からくま川教室の環境整備・指導員の待遇改善、給食施設の衛生基準の確保、整備の推進、ＡＬＴの増員などについて要望や提言があった。

小嶋教育委員　　不登校児童数が減らない、発達障がいの子どもの数が増えている状況において、くま川教室の存在は重要であると思う。施設の老朽化、広さ、場所のわかりにくさが気になるが、移転改築など施設を充実するなどの考えはあるか。

高嶋教育サポートセンター所長　　くま川教室の老朽化については、何度も指摘、ご助言いただいているところである。指導員の先生たちは、環境整備などいろんなことを頑張っておられる。回答にあるとおり現在の場所に建て替えも望まれるが、建て替えの間どうするかということもあり、市の所有する施設で適切なものがでてこないかということも注視しながら検討している。今は中学生が多いが、小学生も将来的には対応が必要と考えれば、施設の充実は喫緊の課題であるが、思うように進んでない。

北岡教育長　　現在、わかりにくい場所にあるが、住宅街の中で目立たない方が子どもたちは来やすい環境でもあるのかなと考える。交通の便もよい。敷地が狭く、老朽化していることは、承知している。市の施設で活用できるものがあり、静かな環境である適切な場所があれば利用できるとよい。経費については、市長、財政当局とも十分に話をすることが必要である。

冨田教育委員　　子どもたちは普通の登校時間より遅れて登校するため、人目を避けている。場所は今のところが一番良いと思う。
　また、８年前は、中学生は進路の目標が全然なかったが、高校進学という目標の手助けをするため、一つの教室に集めて５教科を取り入れて授業をするようになった。今は、子どもたちの意欲になって、みんな高校進学を目指している。とてもいいことだと思う。

松永教育委員　　決算の審査が、特別委員会から常任委員会に変わってどうか。

釜教育部長　　これまでは決算審査特別委員会だったが、通常の予算・案件を年間を通してみてもらっている文教福祉委員に決算を見てもらうことになり、予算決算のつながりがでてくるため、今後効果が出てくると思う。文教福祉関係の年間を通していくなかで、予算も決算も詳しくなり、質問や意見が出ることになるため形態としてはいいのではないかと思う。

松永教育委員　　できたら現地視察をたくさんしてもらうとよくわかってもらえる。いろんな教育施設をみてもらっていれば、ある程度わかってもらえると思う。ぜひお願いしたい。

釜教育部長　　いろいろなことを知った上で質問いただくのがいいと思う。今後取り組ませていただく。

北岡教育長　　今までの文教福祉委員会の委員は、くま川教室、耐震化関係の施設など視察をしている。今回市議の改選により、委員会の委員が変わっている。松永委員が言われたように視察をすれば理解が深まると思う。こちらからも働きかけていきたい。

〈協議第５号　第２期八代市教育振興基本計画（素案）について〉

宮田教育部理事兼教育政策課長　資料により、これまでの経緯、素案について説明

水田教育委員　特別教育の推進とあるが、特別支援を必要とする子どもが学級にいると先生が理解され、保護者に働きかける場合に、保護者が認めない場合があると思うが、どう対応されているのか。

渡邉教育部首席審議員兼学校教育課長　医療機関につないで診断を受けた方がいいと思う子どもがいても、それをなかなか納得されないという現状が、多くの学校で課題となっている。さまざまな手を使って粘り強く話をしたり、他の関係機関と連絡を取りながらケース会議を開いたりしているが、これといった手立てがないのが実態である。学校、市教委も子どもの状況を話して、子どもの学びに最適な場所を提供したいと話をしてるところである。

水田教育委員　保護者が認めなくてもクラスに先生を増やすとか、診断を受けない場合は、教育委員会の先生や医師が直接見に行って補助が必要であると判断したときには補助をつけられるようになればいいのではないかと思う。

渡邉教育部首席審議員兼学校教育課長　現在、特別支援教育支援員として、通常の学級に在籍している子どもについて、特別な支援が必要と判断されて学校から申請があった場合は、予算措置をして、限られた人数を各学校に配置している。学校からはもっとたくさん配置してほしいと言われているが、予算が限られていて１００％配置できていないというのが現状である。

小嶋教育委員　グレーゾーンの子どもを持つ保護者の方が、学校とのもめ事、周りの保護者とのやりとりで悩まれて相談されることがある。また、学校訪問で、きつい思いをしている子どもがいると気づいたときは、先生に話をしている。障がいを特別視している状況に違和感があり、特別支援教育を特別支援の専門の先生だけに任せてほしくないと先生たちに話をしている。特別支援教育は学校教育の基本だと考えているため、特別支援クラスの先生だけにまかせるのではなく、全部の先生がスキルを少しでも持ち、クラスにグレーゾーンの子どもたちがいたときのやりとりやクラスでこまり感のある子どもたちと一緒にいる子どもたちが補い合っていく手法を専門の先生と話をしながらやっていけるようになるとよいと思っている。

不登校の子どもが増えている中で特別支援は専門ではない

と先生に言われるととてもつらい。親同士がけん制し合っている状況がつらいと渡邉課長に相談したりもしている。保護者の立場で言っていただいてありがたい。

水田教育委員　　障がいではなく個性であると思う。認めたくない親もいると思う。予算もあると思うが、お金をかけないといけないところではないかと思っている。

北岡教育長　　素案についてほかにありますか。

水田教育委員　　保護者と学校の意思疎通が必要と思うが、あまりとれていない。授業参観後の懇談会で先生と保護者の意思疎通が図れるようになればよいと思う。

渡邉教育部首席審議員兼学校教育課長　　懇談会に保護者が残られない状況は、どこの学校でも起こっているようだ。懇談会に出ることに魅力がないということで、学校の工夫も必要である。双方で理解し合って子どものために一緒に手をとっていきましょうという雰囲気を醸成できればと思う。

冨田教育委員　　学校が荒れているときに保護者に学校の現状を伝えなければならないと思ったが、学級懇談会が終わると全体会には参加されない保護者が多かった。欠席された保護者に予定を聞いて５回ほど総会を開いて伝えた。１０人ぐらいがどうしても都合が合わなかったが、学校の意思を伝え終わった後、生徒も親も変わり、荒れた学校が回復できたということがあった。学校の気持ちが伝わらないから、いろんなものがいろんな形で出ていると思う。

北岡教育長　　他になければ、説明したとおりで進めるということでよいですか。
【了承】

〈協議第６号　学校評議員制度及び熊本版コミュニティ・スクール（ＣＳ）、次期学習指導要領の全面実施を見据えた授業時数の確保について〉

渡邉教育部首席審議員兼学校教育課長　　まず、学校評議員制度及び熊本版コミュニティ・スクール（ＣＳ）について、協議をお願いしたい。
現在、熊本版コミュニティスクールを導入している学校は、

八代市で１２校あるが、平成３２年４月を目標に全ての学校に推進をお願いしているところである。熊本版コミュニティスクールを進めるに当たり、類似組織である学校評議員制度をどのように考えていくか、全ての校長先生にアンケートをとり、検討した結果、学校評議員制度を発展させた形で熊本版コミュニティスクールへ移行したいと考えている。今回はこのことについてご意見をいただき、１２月以降の定例会で決定していきたいと考えている。

次に、平成３２年度からの次期学習指導要領の全面実施を見据えた授業時数の確保のために土曜授業や夏休み期間の短縮が考えられるが、校長先生全てから意見を聞き、課としての方向性を考えた。土曜授業については、年に数回では効果が感じられないことや部活動の試合、地域の活動と重なるとどちらもうまくいかないなど、学校の考えとしては課題の方が多いということで考えない方向とした。夏休み期間の短縮については、暑いという課題があるが、授業時数を確保し、学力を高めていくためにはベストな選択だとほぼ全ての校長からの意見もある。暑さ対策として、エアコン設置の話も出ているため、関連付けながら移行期間を設けて、徐々に夏休み期間の短縮をしながら平成３２年度に備えていきたい。県内郡市の夏休み期間を踏まえて八代市にとって最適な夏休みの期間を決定していきたい。以上２点についてご意見等をいただきたい。

（意見・質問等　なし）

北岡教育長　　所管課においては、十分関係機関、学校と協議をしていただき遺漏のないよう進めていただきたい。

〈協議第７号　八代市総合教育会議に係る「今後の主要課題」について〉

宮田教育部理事兼教育政策課長　・学校教育を支援する新たな基金の創設について

学校教育においても事業改善が求められており、今後、人材・財源を確保しながら、地域の未来を担う児童生徒の学びを支援していかなければならない状況において、これを実現させるため「八代市学校教育応援基金（仮称）」を創設して、市民、企業、市外からの寄附を募り、市の資金を加えながら基金をもとに、学力向上や生きる力を育む事業に活用を図りたいと考えている。市長の基本政策に掲げられている事業であり、八代市総合計画、教育振興基本計画にも位置づけをはかっているとこ

ろである。

渡邉教育部首席審議員兼学校教育課長

・教職員の働き方改革について

国県も取組を進めているし、学校現場も工夫改善しているが超過勤務が改善されない現実がある。八代市として学校の校務改善を抜本的に見直す時期であるとして、全小・中・特別支援学校へ校務支援システムの導入を図ることを案の一つとして提案したい。国の資料においても「統合型校務支援システムの整備」があげられており、ICT を活用した先生方の事務軽減を図ることで、子どもと向き合える時間を増やしたいということが教職員の働き方改革の一番のアイデアとされている。

・英語教育の推進について

英語教育の推進は、市長の基本政策に位置づけられている。平成３２年度から小学校外国語教育の教科化が完全実施となるが、八代市は、来年度から全ての小学校で先行実施する予定である。これにより英語時間の授業数が増加し、担任をサポートするＡＬＴが不足するため、ＡＬＴを増員し、及び日本人の英語支援員を新規に配置し、英語教育の充実に備えたいと考えている。また、国、県が掲げている中３の５０％が英検３級程度の英語力という目標を目指し、小６から中３までの英検受験の公費補助の予算化を検討している。

塩塚教育施設課副主幹兼設備係長

・学校施設整備について

学校施設は、建設後３０年以上経過したものが６割を占めており、老朽化が進んでいる。平成３２年度までに「八代市学校施設整備保全計画（仮称）」を策定し、施設の長寿命化改修を行いながら老朽化した施設の更新を行う必要がある。

また、耐震化については、八代市立学校施設耐震化計画に基づき、柱、はりの構造体の耐震化は完了しており、引き続き体育館、武道場等のつり天井など非構造部材の耐震化に取り組んでいる。今後も非構造部材の耐震化を推進するとともに、避難所としての防災機能強化を推進することが必要である。さらに、多様化する教育活動への対応や市長の基本政策にも掲げられている教室へのエアコン設置、トイレの洋式化など計画的な学校施設整備の推進が重要となっている。

福原博物館未来の森ミュージアム副館長　・博物館長寿命化のための施設改修
２６年が経過し、建築設備に老朽化が目立っている。市の建設計画に基づき長寿命化を図っていきたい。平成３０年度には、外壁等改修工事の予算要求をする予定である。空調用熱源機など大型設備の耐用年限を迎える平成３５年度の大規模改修に向けて平成３２年度には、博物館改修工事設計業務等が必要になると考える。計画的に行うことにより安全性の確保、長寿命化を図りながら快適で安全な社会教育施設を提供していきたいと考えている。

松永教育委員　英語教育推進について、小６から中３まで英検を受験する場合は、1 人当たりいくらなのか、また、総額でいくらぐらいになるのか。

渡邉教育部首席審議員兼学校教育課長　受験料は５級が２，０００円、４級は、２，１００円、３級が３，４００円となっている。全ての子どもが受験した場合、１学年１，０００人程度の概算で７００万円程度となる。

北岡教育長　その他なければ、総合教育会議では、このようなことが議題となりますのでよろしくおねがいします。

４．連絡事項　生涯学習課　まなびフェスタ八代の開催について
教育サポートセンター　年頭研修会について
博物館　秋季特別展覧会について
事務局　１２月定例会日程確認（12/22　13：00～）
総合教育会議日程確認（11/29　10：00～）

５．会議録署名委員の指名　松永委員・水田委員

６．閉会　（午前１１時５０分　閉会）

平成　　年　　月　　日

署名委員

記録者